

令和6年度 学校評価報告書

小樽市立忍路中央小学校
校長 本庄 有希子

【自己評価】

数値目標に対する達成度を、以下の基準で評価

- A: 100%以上
- B: 80%以上100%未満
- C: 80%未満

【学校関係者評価】

学校の自己評価に対し、以下の基準で評価

- ◎: 適切である
- : おおむね適切である
- △: 適切でない

1 本年度の重点目標

「誰一人取り残さない学びの保障」
様々なニーズを有する児童を誰一人取り残さない多様な学びの機会を確保する。
児童のそれぞれの良さや持ち味を生かし、みんなが活躍できる機会や出番がある授業づくりを行う。1人1台端末を活用した児童一人一人の学習進度や興味・関心に
応じた指導など、児童の特性に合った柔軟な学びを実現する。

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進 計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校 関係者 評価
			評価	取組状況・達成状況	
1 未来を創る力 の育成	確かな学力 の育成	全国学力学習状況調査の平均正答率を全国平均 以上とし、2学期末チャレンジテストの正答率を前年 度比110%、誤答に取り組み児童を100%とする。	A	過去の全国学力学習状況調査問題に取り組み、その分析から学力向上委員会 を中心に授業改善を進めてきた。全国学力学習状況調査の平均正答率は国語 81%、算数79%、誤答に取り組み児童は100%であり、2学期末チャレンジテストの正 答率は73%であり、前年度比を上回ることができた。	◎
	特別支援教育 の充実	「個別の教育的ニーズに応じた指導の充実に努め ている。」に肯定的解答回答をした教員の割合を1 00%とする。	A	特別支援教育コーディネーターを中心とし、個別の教育支援計画や教育指導計 画に基づいた教育活動をすすめて、定期的な個別支援対策委員会を実施した。後 期教職員学校評価の肯定的回答は100%であり、個別の教育的ニーズに応じた 指導の充実に係る取組について目標値を達成した。	◎
	国際理解教育 の充実	「学校はALTを活用した外国語など、新しい時代 に対応した教育活動をすすめている」に肯定的回答 をする保護者の割合を100%とする。	B	外国語活動、外国語に関わらない、多くの場面でALTと児童が交 流出来るよう、行事への積極的な参加を働きかけた。後期保護者学 校評価では89%の肯定的回答であり、目標値を達成できなかった。	◎
	理数教育 の充実	全国学力・学習状況調査の質問紙等で「算数・教 学の勉強が好き」と肯定的に回答した児童の割合を 80%以上にする。	A	中学校教諭による乗り入れ授業の実施など、理数教科の専門性を活かした授業 を実施してきた。全国学力学習状況調査では「算数の勉強が好き」と回答した割 合は67%であったが、後期児童学校評価で、「算数や理科が好き」と回答した割合 は82%であり、目標を達成することができた。	◎
	情報教育 の充実	北海道チャレンジテスト等、MEXCBTを活用した 問題配信を年間5回以上実施する。	A	小中で一貫した発達段階に応じた活用目標を設定し、ICTを活用 した授業づくりを進めてきた。北海道チャレンジテストや端末を活用し た週内課題で、MEXCBTの問題配信を5回以上実施している。	◎
	キャリア教育 の充実	「学校は地域の特色を生かした教育活動をすす めている」に肯定的回答をした保護者の割合を100% とする。	C	総合的な学習の時間を中心として、地域人材を活かした地域を知る 学習を進めてきたが、職業を学び探究的な学習へ進めることができ なかつた。後期保護者学校評価では78%の肯定的回答であり、目標 値を達成することができなかった。	◎
改善方策	「キャリア教育の充実」に向けて、地域の特色を生かした教育活動を「地域の産業を学ぶ」体験的・探究的な学習へと位置づける とともに、各教科の学習内容と将来の生き方とのつながりを意識した授業を展開し、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必 要な基盤となる能力や態度を育てる。				
学校関係者評価 委員による意見	・学年に応じた個性を伸ばす少人数を生かした教育をすすめてください。				
2 豊かな心 の育成	道徳教育 の充実	「学校は、あらゆる機会を通じて規範意識の醸成に 努めている。」に肯定的回答をした保護者の割合を 90%とする。	B	特別の教科道徳を授業参観や指導主事訪問の際に公開し、また外 部講師による人権教室を実施するなど、子どもの規範意識醸成に努 めてきたが、後期保護者学校評価では78%の肯定的回答であり、目 標値を達成できなかった。	◎
	ふるさと教育 の充実	「学校は、地域の特色を生かした教育活動の推進 に努めている。」に肯定的回答をした保護者の割合 を100%とする。	C	地域人材から地域の産業について総合的な学習の時間で探究的に学習する教 育課程を編成・実施してきた。また、その様子について、学校だよりやHP、イン スタグラム等を通じ保護者や広く地域社会への周知を図ってきた。後期保護者学 校評価では67%の肯定的回答であり、目標値を達成できなかった。	◎
	読書活動 の推進	「学校は、児童に読書への興味を持たせる読書活 動の充実に努めている。」に肯定的回答をした保護 者の割合を100%とする。	B	学校司書と連携し、ブックフェスティバルの実施、移動図書館来校の 際の本の貸し出しなどの取組を進め、読書活動の推進について保 護者へ周知してきた。後期保護者学校評価では89%の肯定的回答 であり、目標値を達成できなかった。	◎
	体験活動 の推進	「学校は地域の人材や施設を活用した体験活動を すすめている」の肯定的回答をした教員の割合を 90%以上とする。	A	地域の文化財について学習する教育課程の充実と努めるとともに、 学校だよりやHPを通じた保護者への周知を図ってきた。後期教職 員学校評価の肯定的回答は100%であり、地域を理解する体験活 動を推進することができた。	◎
	コミュニケーション 能力の育成	全国学力学習状況調査「話し合う活動」について、 肯定的回答の児童の割合80%以上、児童学校評 価100%を達成する。	B	全ての教科での振り返りなど「自分の考え」を表出する場面を設定 し、多様な他者と協働する教育活動を進めてきた。全国学力学習状 況調査「話し合う活動」について、100%の肯定的回答であり、後期 児童学校評価では82%の肯定的回答であった。	◎
	いじめの防止や 不登校児童生徒 の支援の充実	「学校は、いじめや不登校の未然防止のためにア セスメントなどに取り組んでいる。」に「十分」「おおむ ね十分」と回答した保護者の割合を100%とする。	B	年2回のアセスメント実施を継続するとともに、欠席時の板書クラウド 化や、課題提出による評価の工夫など不登校児童生徒のウェル ビーイング向上に向けた取組を進めてきた。後期保護者学校評価 では89%の肯定的回答であり、目標値を達成できなかった。	◎
改善方策	「ふるさと教育の充実」について、総合的な学習の時間を中心とし、忍路・蘭島のことを学ぶだけでなく、子どもたちが地域社会と 深く関わり、地域課題の解決に主体的に参加しようとする意欲や能力を育む。				
学校関係者評価 委員による意見	・学年に応じた個性を伸ばす少人数を生かした教育をすすめてください。ふるさと教育という名にこだわらず、小樽全体を題材と し広く人材を活用してください。子どもたちに地域の行事に参加するようはたらきかけをお願いします。				

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
				評価	取組状況・達成状況	
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	「学校は、体力向上のために縄跳びなど運動能力の向上に努めている。」に「十分」「おおむね十分」と回答した保護者の割合を100%とする。	B	鉄棒週間やのぼり棒週間、マット運動週間など子どもが体育の授業以外で運動する機会を意図的に設定し、体力向上の取り組みを実施してきた。後期保護者学校評価では89%の肯定的回答であり、目標値を達成できなかった。	◎
		食育の推進	全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査において「朝食を毎日食べている」と回答した割合90%以上とし、外部講師を招いての食育授業を実施する。	B	今年度は外部講師による3回の食育講座を実施し、地域の食材や「地産地消」について体験的に学習する機会を設定した。全国学力学習状況調査において「朝食を毎日食べている」について100%の回答であり、後期児童学校評価では77%の肯定的回答であった。	◎
		健康教育の充実	「学校は、家庭と連携し、望ましい生活習慣づくりに取り組んでいる」に「十分」「おおむね十分」と回答した保護者の割合を100%とし、健康に関する外部講師を招いた健康に関する講座を実施する。	B	学校全体として生活リズムチェックシートを活用した取組を家庭と連携しやすめ、保護者会などを通じて健康教育実施の状況について周知してきた。後期保護者学校評価では89%の肯定的回答であり、目標値を達成できなかった。	◎
改善方策		今後も体力向上や健康教育の充実に係り、運動週間、生活リズムチェックシートの取り組みを計画的に実施し、外部講師による食育授業の実施について検討する。				
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・運動や食事については好き嫌いがあり、目標値を高くするのは難しいと思う。 ・少ない人数の中、元気に運動会を実施しているのはとても素晴らしい。 				
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	年間複数回の生活リズムチェックシートを実施し、1人1台端末の週末持ち帰りを通じた家庭学習の習慣づけを図る。	A	夏季休業、冬季休業明けに「生活リズムチェックシート」実施期間を設定し、保護者と連携した生活習慣の改善に努めている。また、家庭学習については端末によるデジタルドリル活用した学習を実施している。	◎
		学校と地域の連携・協働の推進	「学校は地域の人材や施設を活用した体験活動をすすめている」の肯定的回答をした教員の割合を90%以上とする。	A	地域人材を活用した総合的な学習の時間の充実に努め、学校だよりやHPを通じた保護者への周知を図ってきた。後期教職員学校評価の肯定的回答は100%であり、地域を理解する教育活動がすすんでいると考える。	◎
改善方策		家庭・地域との連携を見直し、CS運営協議会委員と協力する教育活動を推進するとともに、HPやInstagramを活用した広報活動に取り組む。				
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・家庭、地域とのより良い連携を進めてください。 ・字を書くことも大事なので、端末で回答するようなものは減らしても良いと思う。 ・小中発表会では忍路や蘭島の街の歴史、縄文遺跡の研究など、地域の特性を捉えて発表していた。 				
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	小中共通のグランドデザインを作成し、小中併置に係る保護者アンケートの肯定的回答を100%にする。	C	小中合同の行事実施や、中学校教諭による専科授業の実施など小中一貫教育をすすめる。学校だよりやHP、保護者会などを通じて実施の状況を周知してきた。後期保護者学校評価では67%の肯定的回答であり、目標値を達成できなかった。	◎
		教育環境の整備・充実	教育環境の点検を年3回実施する。	A	後志教育局指導監訪問、指導主事訪問の前に全ての教室の教育環境を点検し、子どもにとって学びやすい環境作りを努めてきた。	◎
		教職員の資質・能力の向上	教員一人、3回以上の研修会、研究会への参加と体罰に関する調査で「体罰0」を継続する。	A	校内研修や小樽市教育研究会への参加も含めて全教職員が3回以上の研修会に参加するとともに、職員会議を活用したコンプライアンス研修を実施し、体罰0はもとより、教職員の資質・能力の向上に努めた。	◎
		学校運営の改善	超過勤務時間が月45時間以下の教員の割合を90%以上とする。	B	クラウドを活用した職員連絡の工夫など、学校DXによる校務改善をミドルリーダー中心に提案してきた。11月末までの月45時間以下の教員の割合は81%であり、目標値を達成することはできなかった。	◎
		学校安全教育の充実	「学校は、警察・消防等との連携など安全教育の充実に取り組んでいる」に「十分」「おおむね十分」と回答した保護者の割合を100%とする。	B	小中合同避難訓練を年3回実施し、保護者へ学校の安全教育について周知を図ってきた。また、令和7年度に向けて危機管理マニュアルを見直している。後期保護者学校評価では89%の肯定的回答であり、目標値を達成できなかった。	◎
改善方策		年間指導計画作成時に「教科の見方・考え方」を新たに記載し、小中一貫して各教科の教育活動を進めることで、学校教育目標の具現化に取り組む。また、クラウドを活用した学校運営の改善に努め、学校の組織力を高める。				
学校関係者評価委員による意見		・小中併置となって3年目、スタートしたばかりなので評価のばらつきは仕方ない。より良い改善に努めてください。				
社会教育に関連する目標（目標6～8）			社会教育機関と連携し、外部講師を招いた社会教育に関する教室を3回実施する。博物館や図書館等の社会教育施設を訪問し、地域の歴史や自然の様子について理解を深める。	A	地域の講師を活用した地域学習や忍路環状列石の見学学習、蘭島川の自然観察や図書館等の社会教育施設見学を3回以上実施することができた。	◎
改善方策		社会教育関係機関と連携し、地域人材や市内で活躍する講師と連携したキャリア教育講話などの教育活動を実施していく。				
学校関係者評価委員による意見		・このまま続けてください。（時々振り返りながら）				